

## 空きトラック情報を公開

### サイト立ち上げ 誰でも無料で閲覧



握手を交わす(左から)イーソーコの太谷敏一社長、トラボックスの吉岡社長、ドコマップジャパンの高林社長、富士運輸の松岡社長、NTTドコモ関西支社の紀伊肇支社長、同関根聡法人営業部長

### 富士運輸など

## 運送と荷主、直接商談

富士運輸(松岡弘晃社長、奈良市)、NTTドコモなど4社は、全国の空きトラック情報を一つの地図上に公開し、荷物と車両のマッチングを実現する情報サイト「ドコマップジャパン」を立ち上げ、11月1日からサービスを始め、空きトラック情報を誰でも無料で閲覧できるのが特長。これにより、荷主や運送会社が直接、空いているトラックを探ることができる。荷主側の輸送ニーズを掘り起こすことで、運送会社の受注機会を増やして空車率を減らし、業界全体での輸送効率の向上を目指す。

(渡辺弘雄)

情報サイトは、富士運輸の親会社であるフジホールディングス(松岡社長、東一)が全額出資し設立したドコマップジャパン(高林治幸社長、同)が運営する。今回の協業には、イーソーコ(遠藤文社長、同)、トラボックス(吉岡泰一郎社長、渋谷区)も参画している。

システムの開発に当たっては、NTTドコモの「かんたん位置情報サービス」を基盤として、富士運輸が

運送事業に特化して開発した上で、利用者が登録した位置情報管理システム「録した空きトラック情報」を、このサイト上の地図に表示する。システムをドコマップジャパンが全国の運送会社に「ドコマップジャパン」を提供する。

空車情報を掲載したい運送会社はNTTドコモのGPS(全球測位システム)端末をトラックに取り付け、積載量や写真などの情報を入力する。初期費用は掛からず、1台当たりの利用料は月額1480円(税抜き)。各車両の端末データは、クラウド型専用サーバーに1分間隔で自動的に記録される。

一方、サイトはインターネット環境さえあれば誰でも無料で閲覧できる。利用者は地図上の空車情報を見て、その運送会社に直接商談を持ち掛け、互いの条件が折り合えば、取引は成立する。ドコマップジャパンは商談に介入しないため、手数料が掛からない。今後はトラボックスの情報サービス「トラまっぶ」を構築させ、会員の運送会社1万3千社にシステムの普及拡大を図っていく。更に、空きトラックの位置、倉庫の情報などを融合しビッグデータの解析を進め、両者のマッチングをAI(人工知能)で高度化する。ことで、更なる空車回送の削減を通じて運送会社の収益の最大化を目指す。

富士運輸では、このサービスを開発する以前、単独での問題解決が難しいことから、異業種によるコラボレーションを通じた打開策を模索。ドコマップ導入後、自社トラックの見える化によって、空車回送率を大幅に減らした。

ドコマップジャパンを含めた参画5社は20日、大阪市内で記者説明会を開き、システムの有効性をアピール。富士運輸の松岡社長は「このシステムを導入後ドライバーの生産性が大幅に高まり、赤字経営を脱却できた。業界にとっても役立つ仕組みなので、ぜひ成功させたい。料金は、社会貢献の意味を考慮して低く抑えている」と語った。